2022 年 東京外国語大学（前期日程）【英語】解答速報

2022 年 2 月 25 日施行

1 長文論述問題

１．

【解答例 1】

創作、特に詩を書くことへの興味とともに、言語と人への情熱、特に文化的に異なる人を観察したり、そうした人と関わったり、理解したりすることへの情熱をもっていたこと。（80 字）

【解答例 2】

言語と人々に夢中になっていた。つまり、人々を観察し、交わり、理解することへの情熱を持っており、それはとりわけ自分自身と文化的に異なる人々に対してであった。（77 字）

２．

【解答例1】

米国への移民である母親が、馴染みのない米国の習俗をしばしば疑問視して彼女を落胆させることがあった一方で、母の部外者的な視点のお陰で「正常」とみなされることを健全に疑う姿勢を彼女は身に着けていた。（97 字）

【解答例 2】

20 代で米国移民となった母が馴染みのない風習に疑問を持つ姿に、子どもながらにがっかりすることもあったが、一方でそうした視点が、他人が「普通」であると考える事柄に対して正しく疑う姿勢を醸成してくれたこと。（100 字）

３．

【解答例 1】

ギリシャ語でそれぞれ「人類」と「～の学究」を意味する anthropos と logy の二語を合成して生まれた。（46 字）

【解答例2】

ギリシャ語で「人類」を意味する「anthropos」と「学」を意味する「logy」の組み合わせである。（45 字）

４．

【解答例 1】

四つの下位区分のうち「文化人類学」の博士号取得者の数が毎年最も多い、という理由。（40 字）

【解答例 2】

毎年文化人類学の博士号を取得する人の数が多いことから推定されるとしている。（37 字）

５．

【解答例1】

イヌイットの文化を学ぶために彼らの生活に溶け込み、共に暮らすという手法をとり、その結果、ほぼ 1 年中過酷な環境下で家族で寄り集まって暮らす彼らは怒りや強い否定的感情を表現することがないことが分かった。(99 字)

【解答例2】

当初イヌイット語をほとんど知らなかったが、寒さにも臆さず彼らの生活に完全に入り込んだ。小さな小屋で厳しい環境下で長く暮らしてきた彼らの家族の間では、怒りや強い悪感情が表に出ないということがわかった。(99 字)

６．

【解答例1】

「文化」の様々な定義の中には、道具や衣類や技術などの生活の物質面に重点を置くものや、形のない信念体系を重視するもの、また、日常生活の実践や慣習に焦点を合わせるものなどがある。(87 字)

【解答例2】

道具や衣服や技術など生活における物質的側面を重視するものや、形のない精神的体系としての文化を重視するもの、また日常生活の中で日々行われている活動や慣習に焦点をあてるものがある。(88 字)。

2 長文空所(単語)補充(語形変化あり)

① cares (三人称現在形)　② conducted(過去形)　③ seen (過去分詞)
④ reached (過去形)　⑤ recognize　⑥ required (過去形)
⑦ do　⑧ taken (過去分詞)　⑨ suggest
⑩ play

3 リスニング:省略　4 リスニング:省略　5 リスニング＋英作文:省略

《全体講評》

本年度は試験時間の変更（30 分短縮）に伴い、これまで長年続いてきた大問の問題構成に変化がありました。従来3題あった長文読解の大問のうち3として出題されてきた「欠文補充問題（センテンス、またはその一部を補う形式）」がなくなり、読解は1の「論述（内容説明）問題」と2の「空所補充問題（単語レベル）」）の2題となりました。

短縮された 30 分は従来の欠文補充問題に割く時間に相当すると考えれば、本年度の各大問に対する時間配分に大きな変化はなかったはずです。本年度と同じ大問構成を実戦演習するには、従来の過去問を「30 分短縮した時間で、欠文補充問題を除いて行う」という方法が有効です。

欠文補充形式は、例年やや迷う選択肢を含む場合が多く比較的難度が高くなる傾向があるので、この形式を苦手とする受験生にとって今回の変化は好ましいものだったといえるでしょう。ただし、今後この大問構成が定着するかはまだ不明です。欠文補充はこれまで東京外大の特徴的な形式で、必要なスキルも他の形式とは異なる要素がありますので、この形式が復活、または他の形式と融合されて出題される可能性もあるでしょう。

なお、リスニング（大問3+4）とリスニングとライティングの融合問題（大問5）の形式・傾向には大きな変化はありませんでした。

《大問別講評》

1の記述式問題の英文は人類学の入門書からの抜粋です。人類学とその一分野である文化人類学について、さらに文化とは何かについて論じています。アカデミックな内容とはいえ、極初歩的な手引き書で語彙や表現も平易です。人類学の知識が乏しくても十分理解できる難度でしょう。

記述説明の小問数（6問）、設問の難度、そして書く分量（総文字数）もほぼ例年通りですが、形式的には若干の変化がありました。例年は各小問に対してその該当部分に下線が引かれていましたが、今年度は下線がありません。つまり、各小問に対してどの部分を参照すべきか、受験生自身が問題全体から絞り込む必要があります。ただし、今回に関しては前述の通り平易な文章で段落ごとの内容展開が分かり易いので、それほど苦労せず参照箇所を見つけることができるはずで、下線がないことで難度が上がったとは必ずしも言えないでしょう。設問自体も、ミクロコンテクスト(比較的狭い文脈）の範囲で解答できるものです。今後下線なしの形式が定着するかどうかについては不明です。また、全体の文脈を踏まえて解答すべき小問などでは、下線がないために難度が上がるという可能性もあるでしょう。

いずれにしても、これまで同様、大学受験レベルの語彙・構文・文法をしっかり身につけておくことと、英文全体のテーマを理解し、論旨展開を追うための思考力が肝要です。加えて、合格答案の作成には、理解した内容を制限字数内の的確な日本語で表現する能力が必要になります。設問の条件をしっかり満たしながら答えることも重要です。基本的な英語の学習に加えて、伝えたい内容を過不足のない、分かり易い日本語で表現するための十分な訓練が望まれます。

2の空所補充は、単語レベルの空所を補充する問題です。英文の内容は「文字を手書きすることの教育的効果」についてで、1と同様、比較的平易な語彙と表現で書かれた、主旨を捉えやすい文章です。

例年通り、10カ所の空所に対して11語の選択肢があります。難易度や問題傾向も近年の過去問から大きな変化はありませんでした。従来から継続するこの問題の作問傾向は以下の3点です。

① 選択肢の単語群が大学入試としては極基本的な動詞が中心である。
② 「必要があれば適切な形に変えて…」という指示がある。
③ 近年の語形は以下のパターンにほぼ集中している。
　ⅰ「動詞を現在分詞（～ing)、過去分詞、または動名詞（～ing)に変える」
　ⅱ「動詞の時制を変化させる」
　ⅲ「動詞に三人称単数現在の Ｓをつける」
　ⅳ　語形変化なし

今年度は～ing とする語形変化はありませんでしたが、その他はバランス良く散らばっています（「過去形」が3つ、「過去分詞」が2つ、「変化なし」が4つ、「三人称単数現在の S」が1つ）。

対策として、動詞の変化パターンに関する文法知識を確実にすること、その上で基本動詞の意味や使い方についての正確な知識を身につけることが必須です。今後も上記①～③の出題傾向が続くと断言はできませんが、このパターンを意識して学習することが特に有効となる可能性が高いことは確かでしょう。

3と4はリスニング問題です。（長文の大問3がなくなって、問題番号が1つ繰り上がっています）。過去には単語や数字を書かせる記述式が出題されたこともありましたが、今年で5年連続で4、5共にマルチプルチョイス問題（3択）となりました。また、近年続いていた「放送 1 回のみ」が、一昨年度は久しぶりに「2回」聞く問題が出題されましたが、昨年度と今年度は2題共に「放送 1 回のみ」に戻っています。放送回数が今後どのようなパターンで定着するかは断定できませんが、「1 回のみ」が基本となる傾向がみられます。

5は9年連続で「リスニングと英作文の融合問題」です。これまでと同様、放送を2回聞き、与えられた参考資料を見ながら、以下の2つの問題にそれぞれ200語程度の英文で解答する形式です。

1）放送内容の要約を英語で書く（200 語程度）
2）放送内容に関連した質問に対して自分の意見を英語で書く（200 語程度）

昨年度はコロナの影響で時間が短縮され、2）が解答不要となりましが、今年度は復活しています。

今年度の参考資料は、いくつかのキーワードとキーフレーズと一緒に空欄が設けられている、ごく簡単なワークシートでした。ワークシート形式の資料は2年連続となります。英文を聞きながらシートの空欄を適切な英語表現で埋めていくと、要約の際の有用なアウトラインになります。ぜひ資料を有効に活用したいところです。

年度によっては参考資料が「英語の見出しがついた数枚の写真」や「講義中に表示されたスライド」など、形式が若干異なる場合もありますが、いずれにせよ、「リスニングの内容について、ヒントを参照しながら英語で要約する」という問いに本質的な能力は変わりません。およそ、50分前後で、各問200語程度（計400語程度）のライティングが求められますので、リスニング力の強化とともに一定の時間内にこのボリュームの語数を書き上げるための十分な準備と訓練が必要です。

リスニングとライティングは共に短期間で外大合格のための必要十分な力をつけることは難しい分野です。中長期的な計画を立てた、日常的な学習が望まれます。